

しては、江差保健所が対応を行います。家族構成、職業、症状等によって、変わって参りますし、診療につきましては、医師、判断になりますので、感染者によって、対応はケースバイケースとなりますので、個々のシミュレーションを行うことは、非常に難しい課題であると考えております。町と致しましては、感染者や濃厚接触者の状況に応じ、江差保健所の指導、助言を頂きながら、対応して参りたいと考えております。

議員ご指摘の情報提供につきましては、随時、広報やホームページ、SNS等で、周知して参りましたし、依頼があった老人クラブの集まり等で、情報提供をして参りました。次々と新しい情報が入ってくるため、タイムリーな提供になっていないこともあるかと思いますが、出来る限り、早く、正しい情報を町民に周知出来るよう、努めて参りますし、1問目のご質問の内容である、新しい相談体制につきましては、道の体制が整備され次第、速やかに町民に周知したいと考えております。併せて、新型コロナウイルス感染症に関する正しい情報等の提供に関しましては、広報やチラシによる全戸配布が基本となりますが、緊急性の必要があると判断された場合には、これまでも数回実施しておりますが、町広報発行とは別に、町対策本部独自のチラシ、全戸配布も考えて参りますので、ご理解願いたいと思います。

「小林議員」

以上です。

(議長)

いいですか。

「小林議員」

はい。

(議長)

はい。小林議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

小梅議員。

「小梅議員」

はい。

それでは、日常生活の中で身近に感じている問題、3問を質問させていただきます。

まず、1問目です。健康寿命と生きがいづくりについてでございます。人生100年時

代を迎え、国は健康寿命を3年延ばそうと、目標を掲げています。生きがいをもっている人は、元気だって今迄言われて来ました。そのために、仲間と支え合って、趣味を楽しみ、グループ活動、社会活動へ参加し、地域の一員として、居場所を求め、生きがいを感じて生活して参りました。それが、コロナ禍により一変し、全ての活動が自粛で行動も制限され、その上、コロナ感染への不安も重なって気持ちが滅入りがちです。自粛期間中に出不正になり、世間との関りを断ってしまえば、孤立し、うつ状態や、認知症の進行、身体能力の低下、特に気力の落ち込みが気になります。ただでさえ、外出を控え目にする、これから迎える冬場に当って、このまま引き籠り状態が続く高齢者が増えないように、周囲での支えとか、目配りがより以上に必要と思うのですが、何らかの対策は、考えてますでしょうか。

(議長)

町長。

「町長」

小梅議員のご質問にお答えします。コロナウイルス感染症により、これまでのような生活が出来なくなっている状況の中で、どのように町民の健康の維持増進を図るのか、特に高齢者への対策については、周囲の支えが必要と思うが、どう考えているのかという趣旨のご質問と理解し、ご答弁を申し上げます。

緊急事態宣言が解除後の6月から、段階的に介護予防事業を再開しておりますが、中々、元通りの参加人員になっていないというのが、現状でございます。そういう中で、生活支援体制整備事業のタウンミーティングを開催したところ地域からは、隣り近所で誘い合っ、買い物に行ったり、楽しみたいという声を聴くことが出来ました。これを受け、タウンミーティングに参加していた、江差町社会福祉協議会が、その声に賛同してくれたことによって、異動サロンという形で、その声がさっそく具現化されたところでございます。高齢化や担い手不足で、各町内会、自治会や、個々の老人クラブだけではなく、実現しにくくなっていることでも社会福祉協議会のような組織が支援してくれることや、地域食堂と言った、地域資源化が結び付くことで、地域の自主的な活動が出来ることを実証することが出来ています。高齢者の健康づくりには、社会参加することが非常に効果的であると言われておりますが、今後も、町内各地域における介護予防事業を実施し、それと並行して、地域が主体となった活動を取り戻せるよう、まちづくりカフェ、タウンミーティングを通じて、町内に点在している地域資源を結び付けることや、より一層、社会福祉協議会とも連携協力して、町民が支え合って活力ある生活が出来るよう取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

いいですか。小梅議員。

「小梅議員」

はい。大変、いい取り組みだと思います。これからも、どうぞ、続けて行って欲しいと思います。

(議長)

はい、2問目です。

「小梅議員」

カナカナ用語の使い過ぎについてでございます。日本語を忘れてしまうカタカナ語という、川柳を新聞で目にして、ああやっぱりなあって、自分と同感の思いでございました。テレビも新聞もカタカナ語とローマ字、アルファベットが溢れてまして、私方にとっては、意味不明の新しい用語とか、表記に高齢者は本当に悩まされています。事に、コロナウイルスのニュースが出てからは、聞きなれない用語がいっぱい、ただでさえ分からないのに不安が広がります。日本語でも十分分かる表現をどうしてそのままカタカナで表記するのかなあ、時代の流れで仕方がないと理解しながらも、これからの生活様式の変化や文明の利器の発達と共に、益々、多様な用語や表記が多くなると推察されます。せめて、行政から示される大切なお知らせは、誰でも分かる日本語、優しい用語の表現を用いて、カタカナ用語を使い過ぎないような配慮が必要と思いますが、如何でしょうか。

(議長)

はい、町長。

「町長」

小梅議員の2問目にお答え致します。カタカナ用語の使い過ぎとのご質問でございます。議員ご指摘のとおり、新型コロナウイルス関連だけでも、ソーシャルディスタンス、クラスター、オーバーシュート、ロックダウン、パンデミック、など、沢山の新しいカタカナ語や横文字がニュースや紙面で多様されています。町から発行される広報紙やホームページについては簡潔には分かりやすい表現をすることで、行政情報を伝える必要があり、なるべく日本語表記をするよう努めておりますし、各課より発出される通知文書におきましても、分かりやすい日本語表記を心がけて参ります。

なお、どうしても専門のカタカナ用語を使わなければならない場合には、全てということには行きませんが、可能な範囲で注釈をつけるなどの配慮をして参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

はい、いいですか。

「小梅議員」

はい。分かりました。宜しくお願い致します。

(議長)

はい、3問目。

「小梅議員」

はい。それでは、3問目です。祭りばやしの発表会は如何かということでございます。一番賑わうはずの祭りも無いまま、静かに夏も終わりました。子ども達はじめ、多くの町民は寂しく思っていることでしょう。今は無理かと思いますが、コロナウイルス感染の広がりやを考慮しながら、冬期間に子ども達による祭りばやし発表会の開催は如何でしょうか。閑散期の施設活用にもなるし、子ども達の元気、地域の一体化、祭りふるさと再認識のもととなる大切なことです。実は、昨年暮れに行われた町民グループによる年忘れ大演芸会のおり、姥神大神宮御渡祭が道の文化財認定を受けたこともあり、愛宕町の子ども達が舞台上で、祭りばやしを披露してくれました。見物のお母さん達は、こんなにもゆっくりお囃子を聞いたことがない。心に響きます。感動しました。いつも忙しく、わさわさしている時に、あ、山車が来たなってただなんとなく音は聞いているんだけど、はっきりこう、ゆっくり聞いたことがない。もの凄く喜ばれました。子ども達に意見を聞いたところ、こんなやり方もいいねって。小中高校生、共々に本当に楽しそうでした。こんな事例もあることから、本祭りが中止になった今年こそ、多くの町内による祭りばやしで盛り上がって、元気になってもらいたいなって思うのですが、如何でしょうか。

(議長)

はい、町長。

「町長」

小梅議員の3問目、姥神大神御渡祭の祭りばやし発表会の開催をしたらどうかというご質問にお答え致します。本年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、姥神大神宮御渡祭が中止になったところであり、毎年各町内の練習で聞こえてくる祭りばやしの音色が聞こえて来なかったことは、大変寂しくも思っております。町としても、御渡祭の中止に伴い、国の地方創生臨時交付金を活用し、町内外の方々に少しでもお祭り気分を楽しんで頂けるよう、観光ポータルサイトに祭りの様子を撮影した動画の掲載や、祭りばやしを体験出来るコンテンツの作成の他、消費拡大に向けたキャンペーンなど、新たな取り組みを

実施して来たところでございます。祭りばやしは、各山車、保存会等が主体となり、保存伝承しており、毎年、祭りばやしコンクールに向けて、一生懸命練習しているところですが、今年は、御渡祭中止により練習も出来なかったことは、子ども達にとっても残念なことで、お祭り期間以外にお囃子に触れる機会があるということは、大変良いことと思います。一方で、新型コロナ感染予防の観点から、子ども達だけではなく、準備や指導する方々が集まることへのリスクや、不安を始め、山車関係者の事前の練習の管理などの負担も考慮しなければならないものと考えております。いずれに致しましても、御渡祭の運営主体である、姥神大神宮祭典協賛実行委員会に対し、主旨をお伝えしながら、各山車保存会や、関係者の意見等を踏まえ、実施の有無を含めて、今後、どのような取り組みが出来るか協議して参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「小梅議員」

はい分かりました。

(議長)

いいですね。

「小梅議員」

終わります。

(議長)

はい。以上で、小梅議員の一般質問を終わります。

午後1時迄、休憩致します。

休憩 11 : 52

再開 13 : 00

(議長)

休憩を閉じて再開いたします。

一般質問から入ります。

次に、出崎議員の発言を許可いたします。

出崎議員。

「出崎議員」

北の江の島構想が今年度から開始している、第6次総合計画に重点施策として位置付けられ、実施計画に移行する運びとなりました。議会に設置された総合計画等特別委員会においても、周辺地も含めゾーンごとの整備について具現化のために議論を重ねました。そこで、かもめ島本体の活用方針について、町長のお考えをお伺いいたします。これまで議